

シリーズ 180万都市の課題 ④

札幌市が抱える課題について、市民の皆さんと一緒に考えていくための企画です。

毎月、市内すべての家庭にお届けしている『広報さっぽろ』。この広報誌について、皆さんはどのように思われているでしょうか。

今回は、より良い広報誌づくりに向けて、広報さっぽろの現状や課題を広くお知らせします。時代の変化に対応し、より親しみを持って読める広報さっぽろとはどういふものか、一緒に考えてみませんか。

昭和25年1月1日号は記念すべき創刊号でタブロイド判です

昭和47年2月号は冬季オリンピック札幌大会が開催されたときのものです

昭和35年4月号から現行の冊子スタイルに。当時はB5判でした

昭和52年1月号から平成5年4月号までの、一番長い表紙デザインです

A4判になった平成5年5月号から12年12月号まではこの表紙デザインでした

検証!!

「広報さっぽろ」の今、そしてこれから

内容に関するお問い合わせは、
広報課 ☎211-2036へ

広報さっぽろは、市民の皆さんに、市政の動きや必要な情報を、的確に分かりやすく伝えるための情報誌。市民の皆さんと市政をつなぐ懸け橋として、重要な役割を担っています。これまで、広報さっぽろは、創刊時のタブロイド判※による新聞スタイルを現行の冊子スタイルに変えたり、昭和四十七年の区制施行の際には区民のページを設けたりしたほか、段階的に文字の大型化も実施。「市民に親しまれ、暮らしに役立つ広報誌」という編集方針の下、読者の意向を第一に考え、時代の変化に対応した誌面の刷新を図ってきました。では、現在の広報さっぽろは、「今」にふさわしい広報誌といえるでしょうか。

実は、今回の特集を企画するきっかけとなったのは、市民の声を聞く課に寄せられた、『広報さっぽろ』をもう少し簡素化してはどうか」というご意見でした。本誌九月号の「まちの声あれこれ」では、この声をテーマに重ねてご意見を募集したところ、内容をはじめ、配布や発行の在り方など、幅広い点について多くの声が寄せられました。

こうした数々のご意見から、私たちは原点に戻って、広報誌の在り方を見つめ直してみたいと考えました。今、広報さっぽろに求められるものとは、そして、これまで以上に役立つ広報さっぽろとは、どういふものなのでしょうか？

※タブロイド判：普通の新聞紙ほぼ半ページ分の大きさ